



郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

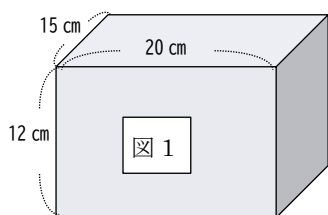
2025年6月1日

6月号

校長 安倍 武雄

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。



おうちの皆さんに問題です。5年生の問題です。「左（図1）の直方体の体積はいくつになりますか？」。

昔々に習いましたね。直方体の体積です。公式は「縦×横×高さ」ですから、公式に数値を当てはめれば簡単です。この直方体の体積は「 $15 \times 20 \times 12 = 3600$ 」で、 3600 cm^3 ということになります。

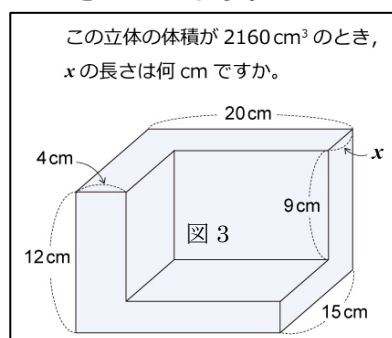
子どもたちは、この体積の公式について、単位のもととなるものがいくつあるかで測ることを学習しています。この立体図形でいえば、図2のように、1段目に 1 cm^3 のさいころが縦 15 個、横 20 個ならび（300 個ですね）、それが 12 段重なる形と考えます。すると、 300×12 となり、全部で 1 cm^3 のさいころは 3600 個あることになります。つまり 1 cm^3 が 3600 個だから体積は 3600 cm^3

になると考えます。長さなら cm、面積なら cm^2 、体積なら cm^3 がいくつあるかを数えることによって、その量を測るのです。一般的にはこのあと大きな単位（ m^3 ）や複合図形などの学習に進み、練習問題という流れになります。私たちは、ここまでの教科書どおりの学習を「共有の課題」と呼んでいます。さらに、浜之郷小学校では「ジャンプの課題」なるものを入れていきます。それこそが、友達を大切にする浜之郷小学校らしさを育てていく場になっているのだと考えています。

「ジャンプの課題」とは、以下のようなものになります。

- より難しい問題に出合うことで、多様な考え方と出会い、友達と助け合ったり、協同の学びの良さを味わったりすることができる課題。
- その課題の解決が見られなくても、それを考えることによって基礎的概念を習得し、ねらいに到達していく課題。
- できる子にとって有意義であるだけではなく、ほかの子たちにとっても「みんなも解けない」「能力差は少ない」と感じ、子どもたちを対等にし、学ぶ意欲をかきたてる課題。

具体的には、図3のような問題です。あるクラスでの子どもたちの様子ですが、実際かなり苦戦しました。3つ、あるいはもっと細かく分けて考えたり、全体から手前の直方体を引き抜いた形で考えたり…。どのグループも頭を寄せ合い、ああでもないこうでもないと自然にたくさんの会話が生まれ、「そうか！ここは 0 cm だ！」との発見があったり、「ここさえわかればなー」と悩む姿があったりと決して一人ではできない学びが展開されていたと思います。担任は時々授業をとめては、「わからないことは？」と子どもたちに問い返し、どこの数値が必要なのかを確認していました。力を合わせてちょっとずつ進むイメージです。5年生以上に限られますが、一緒にチャレンジしてみませんか？
ちなみに、答えは「5」です。



この立体の体積が 2160 cm^3 のとき、 x の長さは何 cm ですか。



「おはなしのまど」のみなさんが、月に1回ランチルームで子どもたちに紙芝居や本を読んでくださっています。子どもたちも楽しい時間の一つです。この活動に興味のある方は、一度見にいらしてください。予定は、裏面の行事予定をご確認ください。